



## 2022年雨期作が継続中!

### 成果 1: 栽培技術



< プルトでの除草作業 >

#### 1. Farmers Field School (FFS)雨期作の進捗

2月に、第2回目(移植)、第3回目(除草・追肥)、そして第4回目(病害虫対策)のFFSワークショップを引き続き実施した。マリアナ灌漑スキームでは、計10回のワークショップを行い、計157名のFFS参加農家や15名の普及員が参加した。プルト灌漑スキームでは、計7回のワークショップを行い、計74名のFFS参加農家や11名の普及員が参加した。現在では、大半の普及員がプロジェクトからの大きな支援なしにワークショップを自ら実施できるようになってきており、これまでの活動を通じて、自信を付けてきているように見られる。

#### 2. 雨期作の進捗

初期段階での手押し除草器による除草が農家間で大分浸透しており、イネの生育は順調である。

#### 3. 東京大学農学院との直播栽培に関する連携調査

東京大学農学院との連携の下、マリアナIにおいて、農家間で広く慣行的に行われている湛水直播栽培の試験研究、ならびに、直播と移植栽培の地理的環境要因に関する調査を進めている。

### 成果 2: 灌漑管理



< 水管理マニュアルのための現地視察 >

#### 1. マリアナIとプルト灌漑スキームにおける水管理マニュアルの改訂

短期専門家(大桑氏)により作成された水管理マニュアル案をタスクグループが議論し、更に現場の状況を十分に確認し、ゲートキーパーとも議論し試案を纏めた。水管理マニュアル案は、今後プルトの総代会やマリアナI灌漑スキームの代表会議にて議論・承認された後、3月下旬を目途に最終化される予定である。

#### 2. マリアナIでの水利費徴収

マリアナIにおいて、ここ数年間、水利費が徴収できていなかったが、この2月に徴収活動が再開された。徴収に先立ち、水利組合(WUA)、39名の支線長、5名の村長が水利費について話し合い、水利費徴収の重要性が改めて確認された。会議に出席した全支線長は、徴収の任務につき承認した。

#### 3. ゲートキーパー、WUA会計役、灌漑職員に対する各研修

プルトにおいて、2月に右記の研修を実施した。①タスクグループによるゲートキーパーに対する、24時間通水のための運営管理や実施記録に関する研修、②タスクグループによるWUA会計役に対する、水利費徴収に備えた簡易経理記録に関する研修、③専門家による灌漑局本省およびバウカウ県・マナツト県職員に対する、測定の研修。同研修では、選定した5-6カ所において測量を実際に行い測量機器に慣れると共に、計測したデータから縦断図を描いた。

### 成果 3: 物流と販売 (民間)



< CAKUB精米機の指導 >

#### 1. チャクブ農家組合への指導

チャクブ農家組合において、精米過程を一つずつ見直し、精米歩留まりが以前の平均53.0%から65.6%に改善した。この歩留まりを維持できるよう、プロジェクトはチャクブ組合作業員の指導を継続する予定。

現在チャクブ組合の倉庫での在庫管理は5Sが徹底されておらず、よって棚卸に時間を要する。今後5Sを徹底した上、毎月末に在庫状況を確認するため棚卸を実施することをチャクブ組合と確認した。

#### 2. コメ粉製品を調理する女性グループへの支援

マリアナI灌漑スキーム内の、コメ粉を使用した菓子などを作る女性グループに対する今後の支援について、チャクブ組合と農業省農業通商局のボボナ口事務所職員が議論した。プロジェクトは、コメ粉を活用した女性グループへの活動計画を支援するため、チャクブ組合と通商局と話し合いを続ける。

### 成果 4: 買取と配布 (政府)



< 国産米キャンペーンに関する調査 >

#### 1. FFSプロモーションを兼ねたNLCによる買取り説明会

National Logistic Center (NLC)は、2022年は粳ではなく精米のみを購入すると発表した。この内容を含めNLCによる新買取り方法や、FFS活動を紹介する説明会の開催日程についてNLCと話し合った。説明会は、3月中旬から4月にかけて、マリアナI灌漑スキーム、その周辺地域、プルト灌漑スキームにおいて順次実施していく予定である。

#### 2. コメ生産振興キャンペーンの効果検証

コメ生産振興キャンペーンである一か月間のテレビコマーシャルの放映が1月下旬に終了したため、マリアナIの農家にキャンペーンの効果を聞き取るインタビュー調査を行った。50名の農家にインタビューを終え、現在その結果の集計作業中である。調査結果により、来年以降のキャンペーン内容を検討する。